

とちぎ高等教育推進まちづくり会議

令和4年度第3回総会

日時： 令和5年2月1日（水）

10：30～10：50

場所： 帯広市役所 10階 第6会議室

1. 開会

【米沢会長挨拶】

- 皆様には、日頃から本会の取り組みに多大なるご理解ご協力を賜り、厚く感謝を申し上げます。
- 十勝・帯広における高等教育の取り組みは、社会環境、そして高等教育を取り巻く情勢の変化を捉え、地域の発展に必要な人材像をこれまで議論し、まちづくりとの連動を進めながら人材育成そして企業支援などに取り組んできたところ。
- 帯広畜産大学を中心に人材や企業、大学などの多くの結びつきがこれまで生まれ、十勝・帯広の知の拠点形成が進み、地域の発展に向けた新たな価値を創出する礎が築かれてきたと考えている。
- これからのまちづくりにおいても、高等教育機関をはじめとする多様な主体と関係性を構築し、地域の課題を共有しながら、ともに発展することが重要であると認識している。
- 本日は、今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方について、忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 議題

(1) 今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方（案）について

【事務局説明】（資料1）

- 前回の会議において、これまでの10年間の取り組みの総括、大学を取り巻く環境の変化、これらを踏まえ今後の取り組みの在り方を整理・検討することとしていた。
- 今回示すのは、資料1にある、今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方（案）。資料2は、高等教育を取り巻く情勢、国の動向などをまとめた資料編である。

- 1 ページ目は、これまでの取り組みの考え方である。平成 23 年度から進めてきた取り組みは、「十勝・帯広の強みを活かし、域外から人や投資を呼び込み、稼ぐ力を高め、持続可能なまちづくりを進めていく」という基本的な考えのもとに、地域特性・優位性を活かしたまちづくり、フードバレーとかちと高等教育を結びつけて、帯広畜産大学を核とした取り組みによって、地域の活力向上と高等教育周辺の環境づくりを進めてきたところ。
- 2 ページ目は、前回の会議で示した、これまでの取り組みの成果の要約である。
- 帯広畜産大学を核に、十勝内外の人材や企業、大学との多くの結びつきが生まれ、高等教育とまちづくりが連動した取り組みが着実に進み、地域の成長に寄与してきたことを前回の総会で確認した。
- 3 ページ目は、高等教育を取り巻く情勢をまとめたもの。詳細は、資料 2 に記載している、国の中央教育審議会の答申などを要約したもの。
- 地域と大学との関係性は、「地域のために大学が貢献する、地域も大学と一緒にあって取り組みを進めていく、そのような大学と地域の関係の構築が重要である」という考えのもとに、地方大学においては、地域の維持発展に向けた役割が求められているとされている。
- 大学がこうした役割を担うためには、学生や教員、教育プログラムの運営体制において、多様性と柔軟性の確保が求められ、そのために他大学との連携の推進などが必要とされている。
- 一方で、18 歳人口、大学進学者数の減少に伴い、大学の経営環境が厳しさを増し、経営面においても変革が必要とされている。
- こうした情勢の中、国は、大学間の連携や統合を推進している。北海道においては三大学の経営統合により、北海道国立大学機構が設立された。
- 機構においては、北海道経済・産業の発展に貢献することを目指しており、帯広畜産大学をはじめとする高等教育機関と十勝・帯広が関係をさらに深めていくことが重要であると捉えている。
- 4 ページ目は、ここまで確認したこれまでの取り組みの総括、そして高等教育を取り巻く情勢を踏まえ、今後の取り組みの在り方を整理したもの。
- 地域の将来発展を考えたときに、地域と高等教育機関の在り方として、「ともに発展していく、そのために連携して取り組みを進めていくこと」が重要であると考えている。
- これまでの取り組みを振り返り、帯広畜産大学を核とした地域特性・優位性を活かした取り組み、人材や企業、地域社会との結びつきなどが地域の成長に寄与することを確認した。
- 現在の社会は、ハコモノに人が集まるのではなく、どのような新しい価値を生み出そう

とするのか、どのような人が取り組みをしているのか、その動きに人々は惹きつけられて集まってくるものと考えられている。

- それを具現化してきたのがこの10年余りの取り組みであった。
- こうした考えのもと、4ページの2段落目から3段落目のおり、大学の経営環境などを踏まえ、帯広市が主体となった新たな高等教育機関の設置に向けた取り組みは終了し、その上で今後の取り組みの在り方として、帯広畜産大学を中心に築いてきた高等教育機関とのネットワークを活かし、連携をさらに深め、人材育成や企業支援などに取り組んでいきたいと考えている。
- また、北海道国立大学機構との新たな取り組みの可能性も模索するほか、それ以外にもこれまで関係性を構築してきた高等教育機関とも、まちづくりの各分野の課題解決に向けて連携していきたい。
- 4ページの最後の段落は、今後の取り組みの推進体制をまとめている。
- まちづくり会議は、新たな高等教育機関の設置に繋げていくために、十勝の発展に必要な人材育成などの在り方について検討を行う組織である。
- 実際の人材育成、大学や企業等とのネットワークづくりなどは、帯広畜産大学やフードバレーとかち推進協議会などが主体となって進めてきている。
- 今回、今後の取り組みの在り方を整理することをもって、まちづくり会議を解散し、今後の高等教育機関と連携した取り組みの推進、検討に当たっては、これまで主体となって進めてきた帯広畜産大学、帯広市の包括連携協定に基づく連携協議会やフードバレーとかち推進協議会を通じて、大学と市などが引き続き連携して取り組んでいきたいと考えている。

【質疑応答・意見】

(帯広畜産大学 長澤学長)

- 高等教育の取り組みの在り方については、説明のとおり進めていただきたい。
- 説明にあったように、今までの取り組みは、まちづくり会議が解散するから無くなるものではなく、形は変わっても引き続き、高等教育機関である畜大と帯広市、さらには十勝全体、フードバレーとかち推進協議会で進めていくと理解した。
- 帯広畜産大学では、地域連携・企業連携を重要視し、それを人づくりに活かしていきたい。そうした方向性については、三大学の経営統合による、第4期中期計画において改めて確認している。
- 十勝19市町村だけでなく北海道全体を見渡しつつ、課題を解決する役割を有している。その地域の課題、企業の課題など様々あり、そうした課題を大学にお寄せいただいて、その解決に携われるような人材、人づくりを進めていきたい。
- 資料に書かれているとおり、ご協力、ご支援いただきたいと思う。

(米沢会長)

- これまでも長澤学長とお話していたところであるが、畜大との連携のあり方、これからも模索していかなければと思っている。
- 先日、北海道国立大学機構の理事長が市においでになり、機構として、帯広市や商工会議所、ここにお集まりいただいた皆様を含め、しっかりと目的や取り組みの方向性、役割を確認しながら連携の在り方を考えていきたいという話をいただき、私もその通りだと思ったところ。
- 今、長澤学長より話があったが、課題の確認は非常に重要なポイントだと改めて感じたところ。目的や方向性など無く連携すると、総論賛成となり、なかなかその先は無くなってしまう。
- そこはやはり課題の洗い出しとそれに対して、それぞれがどういうアプローチをしていけるのか、繰り返しになるが、役割や責任を明らかにして、しっかり取り組んでいきたいというのが、本日の事務局説明の根底にある思いである。ぜひこれからも皆様のご協力賜りたい。

(米沢会長)

- 他になければ、本日の議題は承認いただくということでよろしいか。

<一同、異論無し>

3 その他

<一同、特に無し>

4 閉会

以 上